

# 三小だより 4月

## 新年度の始まりにあたって

校長 大鳥 清裕

はじめまして、今年度、南第三小学校に赴任してまいりました大鳥清裕です。昨年度まで、第七小学校で教頭として勤務しておりました。初めての校長職ということで、行き届かぬ点多々あるかと思いますが、岡村前校長と教職員が力を合わせて築き上げてきた成果を引き継ぎながら、子どもたちのために全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、この4月1日、私が初めて本校に赴任しました日に、新しい元号「令和」が発表されました。新元号が発表された日に新しい学校で新校長としての生活が始まる。何か不思議な運命的なものを感じました。時代の節目となるであろうこの年に、自分は子どもたちのために何ができるのか。あらためて自問した次第です。



一説によりますと、今の子どもたちの65%は将来、今ない職業に就くということです。確かにAIが発達し、あらゆる分野で自動化が進む中、今の子どもたちが大人になった時には我々が経験したことのない世の中を生きることになるのでしょうか。SF小説の中の世界であったことが、現実のものとなっていくのです。であるとすれば、そんな時代を生きることになる子どもたちに、今、私たちはどのような力をつけておいてやる必要があるのでしょうか。旧態依然とした暗記型の学力や、与えられたことをただこなすだけの力では、そんな時代を生き抜くことは困難でしょう。自ら課題を見つけ、その課題を解決するために自分の持つあらゆる知識・能力を活用する応用力が求められるのではないのでしょうか。新学習指導要領が言うところの「主体的、対話的で深い学び」はまさにそういった力をつけるための学びのあり方です。本校でも日々の授業の中で実践してまいりたいと考えています。

しかし、一方で、どんなに時代が変わろうとも、普遍的で変わらない大切なものもあるはず。それは人と人とのつながりであり、人間的な優しさ、人を思いやる気持ちといったものではないのでしょうか。本校ではそういったことがらも、より一層大切にしながら、学校教育を進めてまいりたいと考えています。保護者の皆様のご支援・ご協力をよろしく願い申し上げます。